

## 並木中等教育学校に「医学コース」ができます。

7月18日（水）の新聞記事でご覧になった方も多と思いますが、本校に「医学コース」が設置されることが決まりました。今年度、本校は「医学部進学支援校」に指定されています。そして、2019年度からは「医学コース設置校」となります。具体的には、現在の3年次生が5年次生に進級した年から「医学コース」を選択できるようになります。なお、現在の後期生に対しても、医学部進学の支援を手厚く実施していきます。

# 県立校に医学コース

## 医師不足解消狙い

### 水戸一、並木中等など5校

県は17日、医師不足の解消を狙いに、2019年度から県立の高校と中等教育学校の計5校に、「医学コース」を新設すると発表した。医大や大学医学部への進学に特化したコースは県内の公立校で初めて。病院や大学などと連携した体験実習や医師による講演のほか、予備校などと協力して受験指導体制を充実させる。大井川和彦知事は同日の記者会見で「多くの生徒たちが医学部に進学してくれることを期待している」と述べた。

医学コースを開設するのは水戸一、土浦一、日立一と並木、古河両中等教育学校の計5校。進学実績や中高一貫校の指導の柔軟性などを考慮して選定した。19年度の新入学生（中等教育学校は後期課程の進級生）から対象となる。

「医学研究会」（仮称）を立ち上げる。1年生から生の医療現場などに触れてもらうのが狙いで、大井川知事は「豊かな人間性が高い倫理観や、将来の本県の地域医療を担う人材を育成したい」と強調する。

医学部進学の実現に向けて、医学部進学を望む生徒と一緒に、部進学を望む生徒と一緒に学ぶ学級を編成することに。また、高い目的意識を持つ活動するとともに、医師という職業の理解や使命感を育てることを挙げている。

また、予備校など外部教育機関と連携し、面接や小論文対策など、医学部進学に必要な指導体制の確立を図る。そのほか、より高いレベルの学力を定着させるため、習熟度別の指導にも当たる予定。

県内の人口10万人当たりの医師数（16年度）は189・8人で全国ワースト2位と低迷し、本県の医師不足は深刻さを増している。大井川知事は「医師の確保が厳しい状況。特別扱いをしても医学部進学者を増やしたい」と強調した。（朝倉洋）

◆二〇一八年七月一八日付 茨城新聞 一面

◆この記事については、茨城新聞社様より掲載の許可をいただいております。